

朔東地域は豪雪に見舞われた。今冬は雪が少ないかと思っていたが、結局は辻褄が合ってしまうものようだ。帯広では、今冬の降雪量が 131cm と昨年より 20cm 以上多い。帯広も今冬の除雪予算を使い切って補正予算を組んだと言う。が、大雪は農業にとっては吉兆だとか。悪い話だけではない。道内は大荒れだが、不思議な事に十勝は平穏で、別天地の観がある。(1/15 の状況)

さて、小生、ジョギング登庁を再開した。運動靴の両踵に数個の爪の付いたアイゼンを付け、つま先にはスパイクのついたバンドをしっかりと巻きつけて、頭のとっぺんから下まで完全武装の出立ちでジョギングする。久々にグリーンパークを横断したが、グリーンパークのイベント会場では、第 41 回帯広氷祭りの準備が着々と進んでいる。

第 5 特科連隊の支援隊の指揮所に 7 時一寸過ぎと言うのに隊員が一名何やら準備に余念がない。聞けば、間もなく到着するであろう支援隊員諸官を温かく迎えようと、指揮所・待機所全体を暖めているとの事だ。誇ることもなく、命によることなく、しかも太閤記と違い部下の為に、自然に細かい配慮の出来る多くの隊員が存在するということが精強部隊たる所以かも知れぬ。



(子供達作成の氷のお面)

さて、今年度の第 41 回帯広氷祭りは、全体テーマを「冬を遊ぼう」とし、大雪像 2 基の内 1 基を連隊が担任する。今年は、「ポーラベアファミリー」(北極熊の家族)である。お屠蘇気分も抜けやらぬ今月の 5 日から、施設部隊のオペを含む 50 名体制で、制作に取り掛かり、2 3 日の引渡しを目指し、急ピッチで作業を進めている。14 日には市から激励を受けた。

他の大雪像は、十勝毎日新聞社が担任し、「十勝の自然・カムイの森」で、ふくろうなどの十勝の動物や冬の風景を表現するというものである。

第 41 回帯広氷祭りは、2 3 日の開催セレモニーに始まり、2 5 日までの 3 日間緑ヶ丘公園をメイン会場に繰り広げられる。大雪像 2 基の他、ポーラベアファミリーと共に連隊が手がける大滑り台、雪の迷路、回転そり、遊覧馬そり、ミニ SL、アイスシンボルタワー、市民参加のアイスクャンドルタワー、市内の小学生や幼稚園児が夫々に思いを込めて制作した愛らしい子供氷のお面、寒天に妖しく輝くオーロラファンタジアの花火等多彩な主催または協賛の各種のイベントが繰り広げられる。

見学するならば、一杯着込んで夜に出かけるべきだろう。そこで、色鮮やかにライトアップされた幻想的な世界に遭遇するだろう。

期間中の延べ入場者数は、平均的に 12~13 万人であり、帯広市民の殆んどが見学に訪れると考えて良いのだろう。最近では台湾や香港などの観光客も多いようで、聞きなれぬ言葉を聞く機会も多い。

師団が大雪像制作等をメインとする氷祭り支援を始めたのは、昭和 43 年度の第 6 回からであり、爾来訓練等の関連で支援出来なかった時があれば、オイルショックで中止になった事もある。特科連隊以外の部隊が一部支援した事もあるが、初回支援以来主担任は特科である。そして、今年度は 30 回目の支援という節目でもある。近年に於ける大雪像は、コロシアム、恐竜王国、スペースシャトルと宇宙飛行士等である。とりわけ大雪像に付設する氷の滑り台が子供達に大人気である。

支援隊員諸官の喜びと苦勞の一端を紹介する。それを知って見て頂くのとそうでないのでは雲泥の差がある。氷祭り支援数年の経験を持つベテランである連隊の広報室長 K3 尉に聞き取り・確認した事項は次の通りである。

① 苦勞した（ている）事項

- ・ 虎の子の重機(油圧ショベル、バケット)運用
雪像製作は、自然との勝負である。雪の手配が重要であるのは当然だが、限られた期間内で作成して、実行委員会(帯広市)引き渡す為には重機の効率的運用が必須です。機械力の運用を誤ると計画的な雪像制作が出来ないばかりか、無駄な人力作業を支援隊員に強いることとなる。
- ・ 特に、型枠への雪入れ作業時は、機械力が最もその能力を発揮する時期であるので、特に気を遣います。
- ・ 過去、大雪の時、駐屯地の除雪等のため、機械力が会場から引き上げられた際、ロータリー等を駐屯地中を探し廻って、やっと空いている機械を手配して会場の方へ回してもらったこともある(1 時間でも良いからと泣きついて・・)。行程表が狂うと全てが狂ってしまう。勿論、次の行程には進めない。
- ・ 出来上がりのイメージを持って作業を監督しているけれども、作業する隊員との認識の違いから時間が経ってみると、製作者のイメージと違った形をしている。もう一度、修正の実施と言う羽目に陥ることも間々ある。
- ・ また、机上(粘土模型)で作上げたものを現場で実際の雪像にするとき、隊員は、模型に忠実に作り上げるので、粘土模型にある全く関係ない傷や突起までも再現してくれる。嬉しい反面、正しく伝えなければと反省しきりです。模型と言えどもいい加減にできない。机上のイメージの時から、実際に会場に出来あがる雪像を思い浮かべながら取り組むことが大事だと痛感している。

② 特に気を遣う事項

- ・ 部外者に与える印象(服装規律、行動の統制)
自衛隊が実施する支援協力であり、隊員の服装・行動・言動そのものが自衛隊の印象として部外者に伝わるので服装の統制を始め、指示等は指揮系統による命令により厳格に実施、時間の統制等メリハリをつける。特に、夜間作業に入ると長時間の野外勤務となるので健康管理に気を遣うのと同時に隊員の士気を鼓舞し、維持すると共に安全管理にも、十分に気を配っている。
- ・ 最高の雪像制作に邁進
支援隊員諸官には、『作業等で手抜きやラクしても、良いものは作れない。

やる以上は、最高の雪像を作って見て貰おうじゃないか』との意識を持たせ、それを継続させることが重要です。作業が始まると全ての隊員がその気になってくれるので大助かりです。

③ 嬉しいことは

完成した雪像を多くの市民が見て呉れ、感嘆の声を挙げてくれる。それに尽きます。

④ 隊員の声

- ・ 初めて参加するが、市民に喜んでもらえるものを作り上げたい。
- ・ 札幌雪まつりに負けない雪像をつくりたい。
- ・ 去年までは、学生として祭りを見ていたが、自分が雪像を作るとは思っていなかった良いものを作りたい。
- ・ 作業は寒いですが、完成が楽しみです。

札幌雪祭り、旭川の冬祭りそして帯広の氷祭り等々、北海道には冬の北海道ならではの楽しみがある。十勝管内では、然別湖コタン裸神輿、十勝川白鳥祭り、ウィンターバルーンミーティング、幕別冬祭り、鹿追冬祭り、土幌ゆきんこ祭り、冬蛸(真冬の夜の幻)、シバレフェスエイバル、氷灯夜、そり大会など、他の支庁管内でも多彩なイベントが繰り広げられる。冬なればこそ、戸外に飛び出し、冬を楽しむべきだろう。